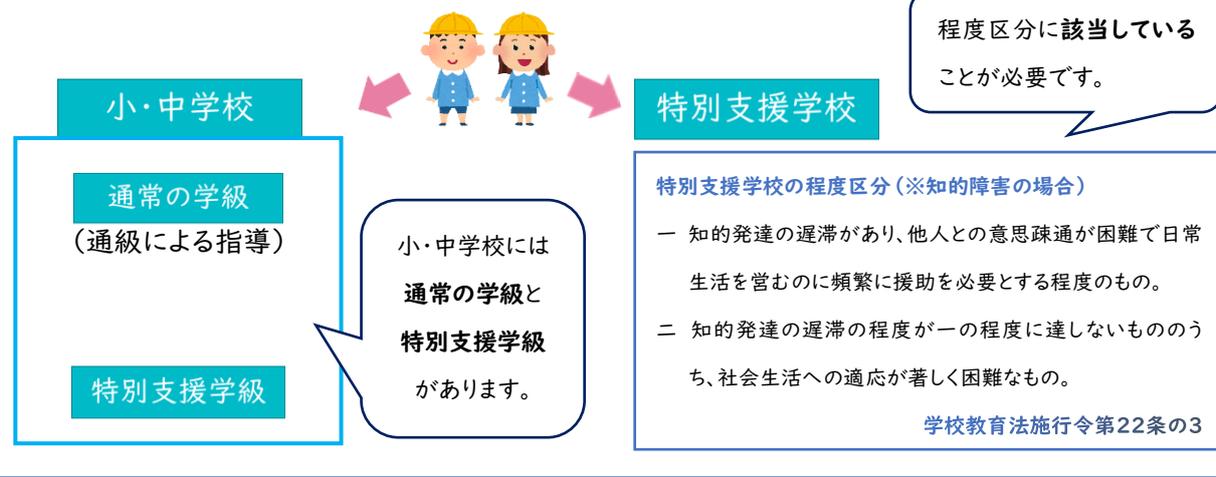




梅雨が明け、暑い日が続いていますが、この6月～7月の間は、学校見学で本校を訪れる方が多い時期です。中でも、「就学相談会で学校見学を勧められて来ました。」という方が多くなっています。そこで、今回はお子さんの就学先(学びの場)にはどんなところがあるのか、また、就学に向けた準備について取り上げます。

小・中学校における就学先(学びの場)



◇就学先(学びの場)には、それぞれ特徴があります。

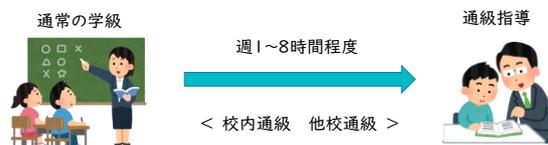
小・中学校
通常の学級

○小・中学校の通常の学級の中で、必要な支援を受けながら学習を行います。



小・中学校
通常の学級(通級による指導)

○通常の学校での授業に概ね参加でき、一部特別な指導が必要である場合。
○知的な遅れがないことが前提です。



小・中学校
特別支援学級

○小・中学校に障害の種別ごとに置かれます。

弱視	難聴
知的障害	肢体不自由
病弱・身体虚弱	自閉症・情緒障害

○1学級あたり8人を標準としています。



特別支援学校

○障害の程度が比較的重い子ども、あるいは、社会生活への適応が困難な子どもを対象としています。

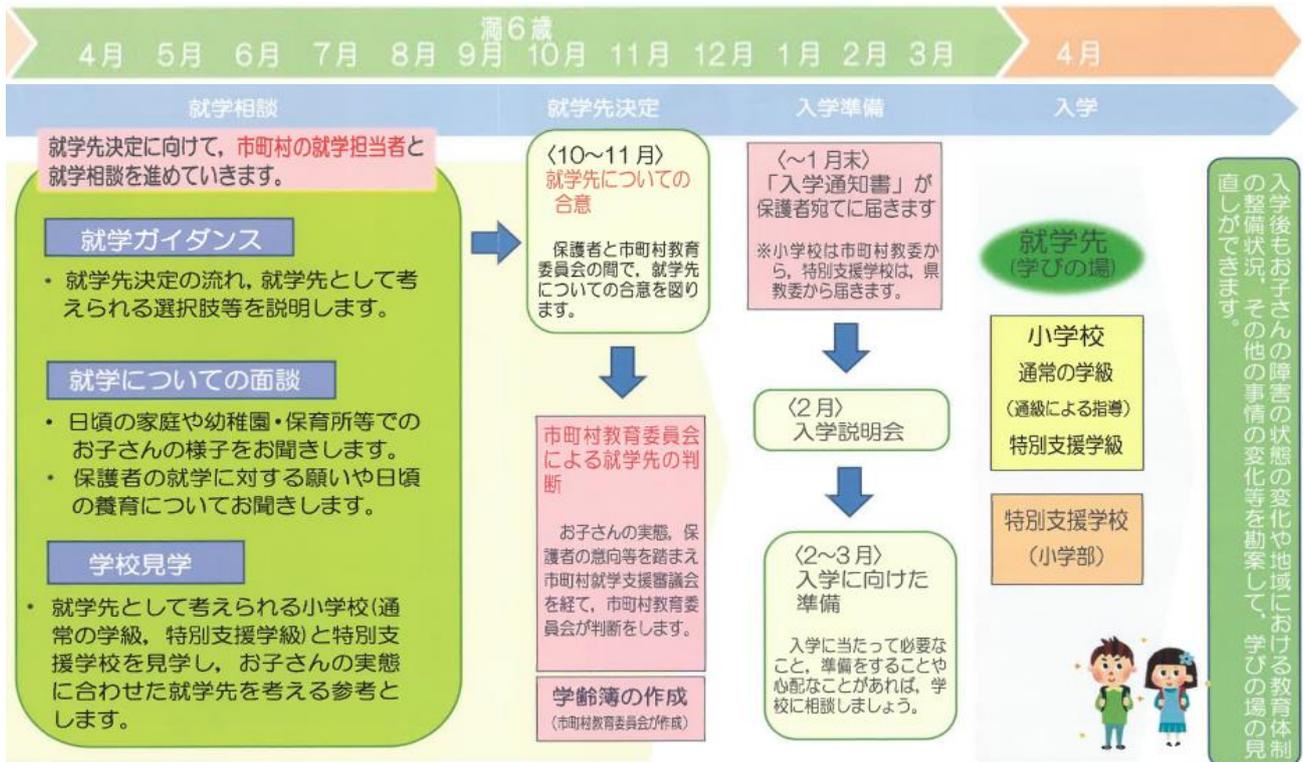
○入院を伴う場合もあります。

○公立特別支援学校(小・中学部)の1学級の標準は6人となっています。(重複障害の場合は3人)



視覚障害者
聴覚障害者
知的障害者
肢体不自由者
病弱者

◇就学に向けたスケジュール



宮城県教育委員会「就学相談のガイド よりよい就学のために」より抜粋

◇就学先決定に向けた準備

①学校見学・相談

*住んでいる地域の小・中学校の通常学級、特別支援学級

*通級指導教室

*特別支援学校



②就学についての面談

登米市では就学相談会を行っています。
※今年度は6月に実施されました。

*就学に対する願い
*日頃の家庭や園での様子
*心配な点や必要な支援など



③資料の準備

*医療機関の受診

*発達検査の実施

*手帳の申請(療育手帳など)



障害の特性は一人一人異なるので、一概にどの学校がいいとはいえません。就学先の候補と考えている学校や学級を見学し、支援体制や教育方針を確認しておきましょう。また、お子さんの様子や発達の状態を学校の先生に伝えておくことも大切です。